

STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ, ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病別医療費は、1位消化器系疾患、2位呼吸器系疾患、3位新生物である。 →消化器疾患全体の医療費のうち、歯科(う蝕、歯肉炎・歯周疾患、歯・歯の支持組織の障害)は68%を占めており、中でも、歯肉炎・歯周疾患は、歯科医療費の大半を占めている 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周病は、40歳代以降医療費が増加する生活習慣病との関連も深く、歯周病対策のため、若年層から一次予防として歯科検診を実施する。 	✓
2	エ	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の若年(30歳未満、30歳代)および60歳代では、JT(株)の調査より高い喫煙率であった。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家(日本禁煙科学会)による禁煙教室を開催する。 	✓
3	ア, オ, カ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病(糖尿病・脂質異常症・高血圧・虚血性心疾患・脳血管疾患)の医療費は、医療費総額の14%を占めている。年代別のグラフから、高血圧や糖尿病・脂質異常症は、35歳以降目立ち始め、特に50歳以降、これらの疾患は急激に増加している。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・データを活用して関係者に協力・支援を得ながら、メタボ以上リスク者を確実に低減する。 	✓
4	ア, キ	<ul style="list-style-type: none"> ・新生物は、35歳以降増えているが、大腸がんや胃がんの健診もできるようになる40歳前半では、初期でも発見されるため一時的に医療費が増えている。新生物の医療費は、60~64歳では急激に増え、その年代の医療費の約30%を占めている。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・新生物の疾患では、乳房が40歳以降、増加傾向となるため、婦人科検診受診を促進する。 ・受診しやすい環境整備を継続する。 	✓
5	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸系疾患については、年代別のグラフから、0歳から10歳前半の子供が大きな割合を占めている。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ予防接種補助を継続実施する。 	

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・被保険者及び被扶養者の男女ともに40歳代の年齢層に一定の人数層がある。 ・扶養率が1.13であり、他の健保組合と比較して高い。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・被保険者を通じての被扶養者への健康意識を様々な方法により向上させる。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導受診者が平成28年度は8.8%であり、全健保組合平均の16.5%と比較して大きく下回っている。 ・婦人科検診の受診率が平成28年度は34.8%であり、乳がん検査及び子宮頸がん検査のそれぞれの受診率は3割(乳がん検査28.8%、子宮頸がん検査24.8%)を下回っている。 ・栗田健保の実施する被扶養者健診受診率が平成28年度は47.2%であり、栗田健保以外の被扶養者健診受診者を合わせても約60%の受診率である。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所(会社と大規模拠点)と健保が協力・支援を行うことにより連携を活性化させる必要がある。